

甲賀市の文化財②9

杣の伝統・木挽きと鍛冶の技術



▶ 歯焼きを実演する鋸職人さん

水口町貴生川から甲南町にかけて、戦前までは鋸の生産地であったことはあまり知られていません。この地で製造された鋸は「前挽鋸」という縦挽用の大型製材鋸で、その製造用具一式が滋賀県有形民俗文化財の指定を受けています。

用具だけでなく、前挽鋸を自在に扱う木挽き職人さんや、鋸職人さんが今も健在なことは大変貴重なことといえます。

甲南町森尻の木挽きさんは木挽き職4代目で、親父さんから「差し金」で頭を叩かれて教え込まれたと言います。なかでも熟練の技が最も発揮されるのが、「木取り」です。木のクセを読み、墨糸を指で挟みはじくと、「ピシッ」という音とともに真つすぐな線が描け、「墨かけ10年」と呼ばれるほど、その習得には時間を要しました。

前挽鋸は柄の部分を持つようにして握り、鋸を体の正面に構え、木口からゆつくりと、体全体を使い挽いていきます。そして2分(約6mm)の厚さまで手で挽け、カンナ掛けを要しないほどの板に仕上がっていきます。

一方、杣川筋の集落には、鋸を作る透き職人さんや、歯焼き職人さんも多く住んでいました。地域ぐるみで鋸生産が行われ、鋸を叩く「カンカン」という槌音が目が覚めたといえます。鋸は金床の上で1万回は叩いて平らにし、その後はカンナ

で透いて、1日1枚のペー
スで仕上げていきました。
最後の工程が歯焼き。フ
イゴで風を送りながら松炭
で鍛冶バサミを焼きます。
真つ赤になった鍛冶バサミ
で歯を1枚挟み、鋸の歯先
に熱が伝わったところ合いを
見て、瞬間に水につけて焼
きを入れます。これを歯1
枚1枚繰り返して、最後にナ
スピ色になるまで焼き戻し
をします。戦前卸で12
円、小売で18円、そして北
海道をはじめ全国に出荷さ
れました。「京都西陣、信
楽陶器、甲賀マエビキ」と
言われた時代があったとな
つかしそうに語っておられ
ました。

機械製材が普及した今日、木挽きや鍛冶の技術は確実に消滅していきます。この地で育まれたこうした民俗技術こそ、今緊急に記録しなければならぬ文化財なのです。

問い合わせ
歴史文化財課 調査管理係
☎ 86-8026
FAX 86-8216

神 社は地域にゆかりの神をまつる宗教施設であるとともに、地域社会のよりどころ、伝統

文化の守り手として大きな役割を果たしてきました。第1巻では市内の神社のうち、平安時代に存在が確認できる古社を紹介しています。

その代表が「式内社」、つまり当時の法律・制度を記した『延喜式』にその名が見える神社で、市域では川田・川枯・水口・矢川・飯道の5社が知られます。これを現在のどの神社にあてるかは見解が分かれる場合もありますが、いずれも社歴や文化財など見るべきところが少なくありません。

もうひとつは「国史現在社」で、『延喜式』には見えませんが、『三代実録』などの「六国史」に見える古社のことです。市域では油日神社がそれにあたり、やはり地域を代表する神社です。神社の歴史を知るとは、郷土の歴史を知ることにつながります。皆さんも身近な神社の歴史をひもといてみませんか。

市史の小径

第27回

甲賀の古社

「式内社」と「国史現在社」

書店での取り扱いを開始します

『甲賀市史』の取り扱いを市書店組合加盟の次の書店で開始しました。ご利用ください。

- 水口 三宝堂書店〈アヤハプラザ〉
ハタヤ書店〈平和堂〉/山川書店〈平和堂〉
山田書店〈平町〉
- 土山 ウエノ〈北土山〉 甲南 一番館〈アーバンぱる〉
- 信楽 谷川書店〈長野〉

なおご予約分は書店では引き換えられません。指定の公共施設でお引き換えください。



▶ 極彩色の本殿をもつ飯道神社(宮町)も式内社のひとつ

購入・問い合わせ 歴史文化財課 市史編さん室
☎ 86-8075 FAX 86-8216